

地理歴史科・公民科（歴史総合）学習指導案

1 単元名 近代化と私たち—産業革命と市民革命—
この単元は、歴史総合「2 内容」の「B 近代化と私たち」の「(2) 結び付く世界と日本の開国」の(イ)、及び「(3) 国民国家と明治維新」の(ア)に該当する。

2 単元目標

- (1) 18世紀後期以降の西ヨーロッパやアメリカの諸革命と産業社会の成立について、19世紀の世界の一体化と関連付けて理解する。
- (2) 西ヨーロッパやアメリカで起きた諸革命と産業社会の成立がもたらした影響について、資料を基に多面的・多角的に考察し、表現する。
- (3) 西ヨーロッパやアメリカで起きた諸革命と産業社会が成立する前後の変化や影響について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

3 単元計画（全体6時間）

(1) 指導計画

- ・産業革命の始まりとその影響 2時間
- ・アメリカ独立の経緯とその影響 1時間
- ・フランス革命とナポレオン戦争 3時間（本時3/3）

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・18世紀の産業革命がもたらした工業化と世界市場の形成、欧米の市民革命による国民統合、立憲体制と国民国家の形成を、資料を基に理解している。	・産業革命の背景と進展に着目して主題を設定し、その影響の正負の面について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・国民国家の形成の背景や影響などに着目して主題を設定し、政治変革の特徴、社会の変容などを多面的・多角的に考察し表現している。	・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組んでいる。

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (2時間)	【学習課題】〈単元を貫く問い〉 「産業革命・アメリカ独立・フランス革命のうち、後世に最も影響を与えた出来事はどれだろうか」 ・産業革命の始まりとその背景	【ねらい】産業革命がイギリスで起きた背景を整理し、理解する。	●			(B) 資料を基に、大西洋三角貿易などイギリスで産業革命が起きた背景、産業革命後の変化について整理できている。 (C) 成果物へのコメントなどを通じて支援を行う。	・ワークシート記述を基に評価する。
	・産業革命がもたらしたもの	【ねらい】産業革命が工業の発展だけでなく、社会の変革をもたらしたことを理解する。	●				
第2次 (1時間)	【学習課題】〈問い〉 「なぜ産業革命はイギリスで最初に起き、その後の社会に何をもたらしたのか」 ・アメリカ独立の経緯とその影響	【ねらい】イギリスとアメリカ植民地の関係など、アメリカ独立の経緯を整理するとともに、現代につながる国制や憲法の特徴を理解する。		●		(B) 独立に至る経緯について、アメリカ植民地を取り巻く状況に着目して記述している。 (B) 連邦制や憲法の特徴を整理し、現在につながることを理解している。	・ワークシート記述を基に評価する。
	【学習課題】〈問い〉 「なぜアメリカは独立することになったのか」「アメリカ合衆国の諸制度は、なぜ独自性をもつことになったのか」						

第3次 (3時間)	<p>【学習課題】〈問い〉 「なぜフランス革命は起きたか、革命に最も影響を与えたものは何か」</p> <p>・フランス革命勃発の背景とその推移</p>	<p>【ねらい】フランス革命勃発までの国外・国内の状況、思想等の特徴を整理し、それを基に何が革命に影響したか考察する。</p>	●	<p>(B) フランス革命を取り巻く国内・国外情勢・思想といった背景について内容を整理し、何が革命勃発に影響したかを記述している。</p> <p>(B) ナショナリズムの広まりなど、革命による影響を整理している。</p>	<p>・ワークシート記述を基に評価する。(ワークシート①)</p>
	<p>・ナポレオンの諸活動とその影響</p>	<p>【ねらい】ナポレオンの事績を整理し、ヨーロッパ各国に与えた影響について理解する。</p>	●		
	<p>【学習課題】〈問い〉 「フランス革命やナポレオンの活動は、周囲の国々や人々にどのような影響を与えたか」</p>				
	<p>・ウィーン体制と反抗の動き</p>	<p>【ねらい】ウィーン体制の特徴と体制への反抗の動きを整理し、フランス革命とナポレオン時代に広まった思想について理解する。</p>	●		
	<p>【学習課題】〈問い〉「ナポレオン後のヨーロッパでは、どのような背景から、どのような政治体制が目指されたか」</p>				
	<p>【学習課題】〈単元を貫く問い〉 「産業革命・アメリカ独立・フランス革命のうち、後世に最も影響を与えた出来事はどれだろうか」</p>		○ ○	<p>(B) 最も影響を与えたと考える出来事について、ポイントを提示しつつ自らの考えを説明している。</p>	<p>・ワークシート記述を基に評価する。(ワークシート③の評価問題①)</p>

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

ア ナポレオン戦争後のウィーン体制と、ウィーン体制への反抗の動きについて理解する。

イ これまでの学習を基に、産業革命・アメリカ独立・フランス革命が後世に与えた影響について考察する。

(2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 (5分)	<p>・前時の復習と本時の学習課題の把握</p>	<p>・フランス革命からナポレオン時代の推移について再確認する。</p> <p>・フランス革命とナポレオンの活動が、ヨーロッパにもたらしたものについて推測する。</p>	<p>・前回までのワークシートの振り返り、必要に応じて確認の発問をする。</p>
展開 (25分)	<p>・ウィーン体制と反抗の動きに関する情報の整理</p> <p>【学習課題】〈問い〉「ナポレオン後のヨーロッパでは、どのような背景から、どのような政治体制が目指されたか」</p>	<p>・学習課題への自分の解答をまとめる。</p> <p>・ウィーン体制の特徴、ウィーン体制下で起きた反抗的な動きについて、ワークシートを用いて整理する。</p>	<p>●ワークシート記述を基に評価する。(ワークシート②)</p> <p>・分からない部分は、教科書や資料集を調べるよう指示する。</p> <p>【知識・技能】</p>

まとめ (20分)	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に対する考察 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習課題】<単元を貫く問い> 「産業革命・アメリカ独立・フランス革命のうち、後世に最も影響を与えた出来事はどれだろうか」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 単元で学習した産業革命・アメリカ独立・フランス革命の出来事のうち、後世に影響の大きかったと考えるものを選び、考えとその理由を記述する。 	<p>○ワークシート記述を基に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間内に終わらなかった場合は、課題としてワークシートを完成するよう指示する。(ワークシート③の評価問題①) <p>【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】</p>
--------------	---	---	--

(3) 本時の評価規準

- ナポレオン戦争後のウィーン体制と、ウィーン体制への反抗の動きについて情報を整理し、理解している。

5 評価問題（評価材料）及び評価規準

(1) 評価問題①【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】

<p>「産業革命・アメリカ独立・フランス革命のうち、後世に最も影響を与えた出来事はどれだろうか」</p> <p>評価規準</p>
<p>「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例</p> <p>以下の項目を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 三つの出来事から適切なものを選び、後世に最も影響を与えたと言える理由（根拠）を、自らの言葉でまとめており、文意も通っている。 <p>産業革命の例：産業革命が社会にもたらした影響について、正負の側面、あるいはどちらかを複数の点から記述している。（交通革命、資本主義の発達、社会問題、労働問題など）</p>
<p>「十分満足できる」状況（A）と判断される例</p> <ul style="list-style-type: none"> 状況（B）で示した観点について、複数の視点から記述するとともに、独自の視点が盛り込まれている。
<p>「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 問いに対する解答の内容、理由の提示が不十分である。 <p>[指導]・記述中に内容などが不十分で補足が必要な場合は、適宜ヒントを提示し記述の改善を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習内容の把握が不十分な場合は、コメント等で知識に関する補足するなどの支援をする。

6 成果と課題

- 今回、1年生の世界史Aで歴史総合を想定した授業を行った。歴史総合の「近代化と私たち」では、欧米で始まる産業革命や18世紀後半以降の市民革命は、歴史総合では産業革命が経済に関連して「(2)結び付く世界と日本の開国」、アメリカ独立やフランス革命といった市民革命は政治や国民国家の形成に関連して「(3)国民国家と明治維新」と分けて扱われる。ただし世界史Aでは「世界の一体化と日本」のヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成」で扱われる部分であるため、産業革命から一連の市民革命を一つの単元として想定して授業を組んだ。
- 歴史総合では、日本が近代化の過程で受けた影響や与えた影響を扱う場面が増えるため、今回想定した内容は従来の世界史Aよりも短い時間で扱うことが想定される。短い時間の中で生徒が単元での問題意識を明確にできるよう、「単元を貫く問い」と各時間の学習課題のつながりを高める必要がある。今回の実践では産業革命・アメリカ独立・フランス革命という三つの大きな出来事を軸に単元を組んだが、「単元を貫く問い」の設定が大まかなもので全体の構造化が十分ではなかった。アメリカ独立・フランス革命を含む単元であるので、歴史総合の教科書で取り上げられているように、市民革命あるいは国民国家形成の観点をより明確に取り入れれば、問いが組み立てやすかったのではないかと考える。
- 「単元を貫く問い」の評価規準については生徒に説明したが、何を書いてよいか内容の組み立てに時間がかかる生徒もいたため、最初に何を念頭に置いて自分の考えを記述するか明確にしておく必要があった。
- 「単元を貫く問い」の記述では、後世への影響について「後世には現代も含む」との補足を加えた。また三つの選択肢を提示したが、全体的には産業革命を選ぶ者が6割で最も多く、多くは交通機関の発達や資本主義の発展、生活様式の変化をその理由としてあげていた。負の側面としては、労働

問題や都市への人口集中による環境問題をあげる者がみられたが、これは産業革命の授業時に取り上げたことも影響していると考えられる。解答欄の紙幅の関係から複数の視点を挙げることは難しく、また選択肢によって多少の差は生じたが、評価は8割程度が(B)と判断されるものであった。

(C)と判断されるものは各クラスで1～2名程度見られたが、理由の提示が不十分なものであり、指導によって改善の可能性もあると言える。

- ・今回の実践では問いに対して生徒が考えを整理し論述する機会を設けたが、授業の時間内で完成できずに授業後の課題とした者もいた。歴史総合でもこのような論述の機会が増えると考えられるが、情報共有の場面やロイロノートの導入など、授業者が柔軟に対応する必要がある。

7 参考文献

- ・教科書『世界史A 新訂版』(実教出版, 2016年)
- ・教科書『新しい社会 歴史』(東京書籍, 2020年)
- ・教科書『高等学校 歴史総合』(第一学習社, 2021年)
- ・教科書『現代の歴史総合 みる・読み解く・考える』(山川出版社, 2021年)
- ・教科書『詳述歴史総合』(実教出版, 2021年)
- ・「歴史総合Q&A」高大連携歴史教育研究会編 高大連携歴史教育研究会
https://kodairekikyo.org/wp-content/uploads/2021/07/rekishisogo_q_and_a.pdf